

心理学 でも 試験に

豪華小冊子

新試験制度の実際を解説 !!

I	はじめに	
	～新試験制度においても心理学の専門試験対策は従来通りである～	2
II	新試験制度における心理系公務員試験の実施方法	4
III	平成 24 年度 新試験受験者からの報告	8
IV	[新試験制度] 国家公務員試験（総合職人間科学・法務省専門職員） 択一専門試験 問題と解説	9
V	地方自治体の心理職・心理判定員の出題傾向	31
VI	[新試験制度] 裁判所総合職（人間科学）一次専門試験 解答例	34
	付録：心理職公務員を目指すにあたってのよくある質問	37

1 新試験制度での心理学

平成 24 年度から国家公務員試験が新制度に変わり、人間科学区分の心理学における出題傾向がどうなるかが注目された。国家総合職（旧国 I）、法務省専門職員（新設）、裁判所総合職（旧家裁調査官補）、いずれの試験においても、心理学の専門択一・記述問題について、平成 24 年度の問題冊子を見た限りでは、出題内容の傾向も難易度も、新たな対策が別途必要なほど変わったと思われる点はなかった。試験が新制度になったとしても、心理学の専門試験対策として勉強すべきことは従来と変わらないという印象を持った。これが新試験制度に対する筆者らの率直な感想であり、この小冊子で強調したいことの一つである。

新試験制度の詳細については、4 ページ以降の試験の実施方法の表を参照してほしいが、心理学に関して、国家総合職の一次試験で択一 40 題（平成 23 年度より 5 題減）、二次試験で専門論述 2 題という形式、裁判所総合職の一次試験で語句説明 6 題、二次試験で専門論述 2 題という形式は従来と同様である。国家総合職では択一問題が 5 題減ったのでむしろ負担は軽くなったくらいである。

さて、最も大きな制度の変更点は、新たに設定された「法務省専門職員」の試験である。矯正心理職、保護観察官、法務教官に分けられており（試験日が同じであり、これら三者の併願は不可）、専門試験は 40 題。矯正心理職と保護観察官については、従来と異なり、専門択一では心理学以外の科目も解かなければならない。矯正心理職は 40 題中 30 題心理学を選べるが、残りの 10 題は教育学、社会学、福祉のいずれかから選択する。保護観察官と法務教官については、心理学、教育学、社会学、福祉から各 10 題ずつ合計 40 題を解く。このため、心理学専攻で保護観察官を目指す学生は、他の教科の対策を余分にしなければならない（法務教官は従来から教育学、社会学等が専門試験科目に入っていたので従来とさほど変わらない）。試験の具体的な実施方法については 6 ページの表を参照のこと。

平成 24 年度に法務省専門職員で出題された心理学（全 30 問）は、社会心理と臨床心理の出題が多めで、難易度はかつての国 I に比べると易しい印象（過去の法務教官試験の心理学のレベル）である。従来通り心理学の各領域からバランスよく出題された国家総合職とは対照的である。『試験にでる心理学』の各巻で過去問を解くことにより十分対応できる。

この別冊では平成 24 年度の試験で出題されたもののうち 17 題を、9 ページ以降で採録し、解答と解答のポイントを加えている。『試験にでる心理学』（本冊）の内容と比較してみると、傾向がほとんど変わっていないことが確認できるだろう。

2 合格するための試験対策

●全体の出題傾向は過去問でつかむ

過去問に優る対策はない。心理学の歴史は短く（「過去は長い」としても）、ヴント（Wundt, W.）に始まるとしてせいぜい130年くらいである。ゆえに、過去に一度も出題されておらず、かつ心理学の試験として内容的に妥当なものをいくつも次々と出題するということが、無理である。その証拠に、「シケシン」の各シリーズをご覧になればわかるように、ここ数十年にわたって同じテーマ、理論を扱った問題が繰り返し出題されている。一例をあげると、Meyer, Schvaneveld, & Ruddyの意味プライミングの実験は、過去12年間で4回出題されている（近年では、平成22年の国家I種、平成24年の法務省専門職員の試験で登場）。まずは過去問をしっかりと解き、心理学辞典や心理学の各領域のテキストで知識を再確認することが最善の対策である。

●新たな研究動向や知見は大学の講義や演習で学ぶ

しかし当然、新たな研究動向を反映した新しい知見も少しずつ出題されるようになってきている。平成22年には国家I種でfMRIやNIRS、TMSなどの脳機能測定法が、平成24年にはBaddleyのエピソードバッファが、それぞれ択一問題で扱われている。また心理統計においても、構造方程式モデリングの見方などが出題されるようになっている。こうした比較的新しい研究動向の対策についても筆者らがこれまで主張してきたとおり、現在学部生、院生であれば、大学の講義、演習、実験演習などを有効活用してほしい。大学にはその領域の専門家でありかつ最新の研究に取り組んでいる先生方がたくさんいる。講義やゼミで新たな研究動向に触れる機会はあることと思う。そうした先生方から直接講義を受けたり指導してもらえるとすることは、それだけで公務員試験にも有利である。

某地方国立大（旧帝大ではない）のある学部生は、予備校には通わず（教養試験対策のみ学内講座を利用）、心理学の勉強に関しては、大学で講義名に「〇〇心理学」のように「心理学」のついた授業は可能な限りすべて履修ないし聴講し、外部講師による集中講義も履修はしなくともすべて出席して聴講したという。最新の研究動向はそのように勉強し、それ以外は「シケシン」で過去問をひたすら解いたそうだ。彼女は家裁と地上心理の両者に合格、内々定を得た。

心理系公務員を目指す人には、市販の心理学書や辞典、「シケシン」を利用して古典かつ標準的な知識を身につけるとともに試験問題の解き方を覚え、大学の授業や演習を利用して研究の新動向を押さえるというバランスで対策することを勧めたい。

II 新試験制度における心理系公務員試験の実施方法

平成 24 年度に試験制度に変更があったのは、国家公務員、特に心理系の場合、国家総合職（旧国家 I 種）と裁判所総合職（旧家裁調査官補）である。そこで、平成 24 年度新制度の試験の方法について、概要を以下に示す。最新の国家公務員（総合職人間科学／法務省専門職員）の採用試験情報は、人事院のサイト（国家公務員試験採用情報ナビ <http://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo.htm>）をチェックすること。同様に、裁判所総合職（人間科学）の最新の採用試験情報等については、裁判所（<http://www.courts.go.jp/saiyo/index2.html>）のサイトを確認するようしてほしい。

なお、地方自治体の心理職、心理判定員の採用試験に関しては基本的に従来どおりである。自治体によって試験の実施方法が異なることもあるため、各自受験を希望する自治体の人事委員会の職員採用に関するサイトを確認すること。

1 国家公務員総合職・法務省専門職試験（旧・国家 I 種 人間科学 I）

●総合職 院卒者試験（心理系の場合）（※試験の内容は大卒程度試験と共通）

試験	試験科目	解答時間 解答題数	内容	配点 比率
第 1 次 試 験	教養試験 (多肢選択式)	2 時間 20 分 30 題	公務員として必要な一般的な知識及び知能についての筆記試験。 知能分野 24 題（文章理解、判断・数的推理、資料解釈含む）、知識分野 6 題（自然、人文、社会、時事含む）	2/15
	専門試験 (多肢選択式)	3 時間 30 分 105 題 出題、 40 題解答	<u>I 部 5 題</u> 人間科学に関する基礎（人間科学における調査・分析に関する基礎、人間科学における行政的問題を含む） <u>II 部 15 題</u> 心理系 人間の資質及び人間の行動並びに人間関係の理解に関する心理学的基礎（心理学史、生理、知覚、学習等）、心理学における研究方法に関する基礎 <u>III 部 20 題</u> 次の 14 科目（各 5 題）から 4 科目を選択 認知心理学、臨床心理学、教育環境学、教育心理学、教育経営学、教育方法学、社会福祉総論、社会福祉各論、福祉計画論、地域福祉論、社会学（理論）、社会学（各論）、社会心理学、現代社会論	3/15

第2次試験	専門試験 (記述式)	3時間30分 2題解答	選択問題2題 (同じ領域から2題選択可) ○心理学に関する領域 (人間の資質及び行動並びに人間関係の理解に関する心理学的基礎, 行政的な課題・社会的現象について, 心理学的な視点から論述をするもの), ○教育学, 福祉及び社会学に関する領域 ○教育学に関する領域, 福祉に関する領域, 社会学に関する領域	5/15
	政策課題討議試験	1時間30分程度	課題に対するグループ討議によるプレゼンテーション能力やコミュニケーション力などについての試験 (課題に関する資料の中に英文によるものを含む) 6人一組, レジюме作成 (25分) → 個別発表 (3分) → グループ討議 (30分) → 討議を踏まえて考えたことの個別発表 (2分)	2/15
	人物試験		人柄, 对人的能力などについての個別面接 (参考として性格検査を実施)	3/15

●総合職 大卒程度試験 (心理系の場合) (※試験の内容は院卒者試験と共通)

試験	試験科目	解答時間 解答題数	内容	配点 比率
第1次試験	基礎能力試験 (多肢選択式)	3時間 40題	公務員として必要な一般的な知識及び知能についての筆記試験 知能分野27題 文章理解, 判断・数的推理, 資料解釈含む, 知識分野13題 (自然, 人文, 社会, 時事含む)	2/15
	専門試験 (多肢選択式)	3時間30分 105題出題, 40題解答	<u>I部5題</u> 人間科学に関する基礎 (人間科学における調査・分析に関する基礎, 人間科学における行政的問題を含む) <u>II部15題</u> 心理系 人間の資質及び人間の行動並びに人間関係の理解に関する心理学的基礎 (心理学史, 生理, 知覚, 学習等), 心理学における研究方法に関する基礎 <u>III部20題</u> 次の14科目 (各5題) から4科目を選択 認知心理学, 臨床心理学, 教育環境学, 教育心理学, 教育経営学, 教育方法学, 社会福祉総論, 社会福祉各論, 福祉計画論, 地域福祉論, 社会学 (理論), 社会学 (各論), 社会心理学, 現代社会論	3/15
第2次試験	専門試験 (記述式)	3時間30分 2題	選択問題2題 (同じ領域から2題選択可) ○心理学に関する領域 (人間の資質及び行動並びに人間関係の理解に関する心理学的基礎, 行政的な課題・社会的現象について, 心理学的な視点から論述をするもの), ○教育学, 福祉及び社会学に関する領域, ○教育学に関する領域, 福祉に関する領域, 社会学に関する領域	5/15

第2次試験	政策論文試験	2時間 1題	政策の企画立案に必要な能力その他総合的な判断力及び思考力についての筆記試験（資料の中に英文によるものを含む）	2/15
	人物試験		人柄、対人的能力などについての個別面接（参考として性格検査を実施）	3/15

●法務省専門職員（人間科学）試験（※大卒、院卒の区別はなし）

試験	試験科目	解答題数 解答時間	配点比率		内容
			矯正心理 専門職	その他の 区分	
第1次試験	基礎能力 試験 (択一式)	40題 2時間20分	2/11	2/10	公務員として必要な能力（知能及び知識）についての筆記試験 知能分野27題（文章理解、判断推理、数的推理、資料解釈） 知識分野13題（自然・人文・社会、時事含む）
	専門試験 (択一式)	40題 2時間20分	3/11	3/10	法務省専門職員（人間科学）として必要な専門的知識などについての筆記試験 【矯正心理専門職区分】60題出題40題解答 必須問題 心理学に関連する領域 選択問題 次の40題から任意の計20題選択 心理学Ⅰ、教育学Ⅰ、福祉Ⅰ、社会学Ⅰ 【法務教官、保護観察官区分】40題出題40題解答 心理学Ⅰ、教育学Ⅰ、福祉Ⅰ、社会学Ⅰ
	専門試験 (記述式)	1題 1時間45分	3/11	3/10	法務省専門職員（人間科学）として必要な専門的知識などについての筆記試験 【矯正心理専門職区分】心理学に関連する領域 1題 【法務教官、保護観察官区分】選択問題 次の領域から4題出題、任意の1題選択 ○心理学に関連する領域、教育学に関連する領域、 ○福祉に関連する領域、社会学に関連する領域
第2次試験	人物試験		3/11	2/10	人柄、対人能力などについての個別面接（矯正心理専門職区分：心理臨床場面において必要になる判断力等についての質問も含む） 参考として性格検査を実施
	身体検査		*	*	主として胸部疾患、血圧、尿、眼・聴器その他一般内科系検査
	身体測定		*	*	視力についての測定

注：具体的な採用人数は毎年変更があるため要注意。平成24年度からは、法務教官の他、法務省矯正心理専門職、保護観察官も男女別となる。枠はA（男子）、B（女子）で表される（例：法務教官A、法務教官Bなど）。なお、法務教官のみ社会人枠あり。

2 裁判所職員採用総合職試験・人間科学区分（旧・家庭裁判所調査官補採用 I 種試験・心理区分）

●院卒者試験（※試験の内容は大卒程度試験と共通）

試験	試験科目	内容・出題分野・出題数	解答数	解答時間	配点比率
第1次試験	基礎能力試験 (択一式)	公務員として必要な基礎的能力（知能及び知識）についての筆記試験 (知能分野 27 題, 知識分野 3 題)	30 題	2 時間 25 分	2/18
	専門試験 (記述式)	心理学 (200 字×2 題, 400 字×4 題)	6 題	2 時間 30 分	3/18
第2次試験	政策論文試験 (記述式)	組織運営上の課題を理解し、解決策を企画立案する能力などについての筆記試験。	1 題	1 時間	1/18
	専門試験 (記述式)	次の科目のうち選択する 2 科目（2 題） 臨床心理学, 発達心理学, 社会心理学, 家族社会学, 社会病理学, 社会福祉援助 技術, 児童福祉論, 老人福祉論, 教育方法 学, 教育社会学, 教育心理学	2 題	2 時間	3/18
	人物試験	人柄, 対人能力などについての集団討論・ 個別面接			9/18

●大卒程度試験（※試験の内容は院卒者試験と共通）

試験	試験科目	内容・出題分野・出題数	解答数	解答時間	配点比率
第1次試験	基礎能力試験 (択一式)	公務員として必要な基礎的能力（知能及び知識）についての筆記試験 (知能分野 27 題, 知識分野 13 題)	40 題	3 時間	1
	専門試験 (記述式)	心理学 (200 字×2 題, 400 字×4 題)	6 題	2 時間 30 分	1.5
第2次試験	政策論文試験 (記述式)	組織運営上の課題を理解し、解決策を企画立案する能力などについての筆記試験。	1 題	1 時間 30 分	0.5
	専門試験 (記述式)	次の科目のうち選択する 2 科目（2 題） 臨床心理学, 発達心理学, 社会心理学, 家族社会学, 社会病理学, 社会福祉援助 技術, 児童福祉論, 老人福祉論, 教育方法 学, 教育社会学, 教育心理学	2 題	2 時間	1.5
	人物試験	人柄, 対人能力などについての集団討論・ 個別面接			4.5

1 法務省専門職員試験 専門択一試験を受験した学生の感想

「法務省専門職員の矯正心理職の専門択一試験は、全体に臨床・発達と社会の出題が多めであった。専門試験は 40 題である。うち必須の心理学が 20 題、残りの 20 題は科目を選択するのではなく、心理学、教育学、社会学、福祉からなる 40 問（各科目 10 問ずつ）のいずれを回答してもよいという方式であった。最初は全部心理学で解こうと思っていたが、教育学や福祉で解けるものがあったので、何問かはそちらを選んで解いた。」

※心理学以外の科目も対策する場合は、最初から勉強する科目を限定しすぎず、少し広めに勉強していた方が本番で余裕を持てるということが窺われる報告である。

2 裁判所総合職（人間科学）の集団討論

平成 24 年度より、裁判所総合職では人物試験に新たに集団討論が加わった。ところがその実施手順等についての情報は、試験前にはいっさい発表されなかった。受験者の報告によれば以下のとおりであったという。平成 25 年度以降はまた方法が変更される可能性もあるため、その点には注意すること。

- ・すべての受験者が、「集団討論→個別面接」の順で受けた。
- ・集団討論は 5 人一組、討論テーマはその場で出題された。
テーマは「若者の早期離職が増えているといわれているが、その社会的背景について論ぜよ」。
- ・試験官は 3 名で、受験者 5 人が U 字（半円）型に座っている前に並んで観察していた。
- ・テーマについての検討時間 10 分、討論時間 30 分。
- ・司会者（進行役）は決めない。最後のグループとしてのまとめもなかった。
- ・集団討論の後に行われる個別面接では、集団討論の時の受験者のふるまいや発言の様子についての、ふりかえり的な質問があった。
- ・裁判所（家裁調査官）の面接の定番の質問のほか、新たに「総合職」となったことや、新たな養成制度について意見や考えを求められた。

3 国家総合職（人間科学）院卒者試験の政策討議（集団討論）

国家総合職でも、院卒者の二次試験で「政策討議試験」という名の集団討論が新たに導入された。5 ページの院卒者試験の実施方法にも書いたように、国家総合職では政策討議の具体的な手順等が事前に公開されるので、最新の情報を必ず確認すること。

- ・個別面接（人事院面接）→政策討議の順に行われた。

- ・ 討議は受験者 5 人一組。試験官 5 名。
- ・ テーマ（救急車有料化に賛成か、反対か）について、配付された資料（英文やグラフ等も含む）を見ながら控室でレジюме（A4 白紙 1 枚）を作成する（25 分）。レジюмеにはグラフなどを書いてよいと試験官から教示があったが、その余裕はなかった（同じグループの他の受験者もグラフ等を書いた人はいなかった）。
- ・ 別室に移動して討議開始。まず、作成したレジюмеをもとに個別発表（3 分）してから、グループで討議（30 分）。討議終了後もう一度、個別発表（2 分）。

※受験者が作成したレジюмеは、討議に移る前にいったん回収され、コピーされてグループの各受験者に配付される。全員が他の受験者のレジюмеを手元を持って討論をする。配付資料やレジюмеは終了後すべて回収される。

IV [新試験制度] 平成 24 年度国家公務員試験（総合職人間科学・法務省専門職員） 択一専門試験 問題と解答

国家総合職人間科学、法務省専門職員の試験において平成 24 年度に出題された問題を 17 問選び、**解答と解答のポイント**を加えた。なお、本問中の「国総」は国家総合職、「法専」は法務省専門職員で出題されたことを示す。

1 心理学史

①心理学における生物学的アプローチに関する記述として妥当なのはどれか。（国総 H24）

- 1 ロマーニズ（Romanes, G. J.）は動物と人間の連続性を踏まえ、動物の行動の記録や観察事例の収集に基づいて動物の知能研究を行った。しかし彼が利用した逸話法という方法は、動物の知能の擬人的解釈を避けることができなかった。この問題は「賢いハンス（clever Hans）」の事例に典型的に表れている。ハンスは文字を読んだり、計算をしたり、簡単な問題に答えることができ、一時は高度な知能を持つと考えられた。しかしその後、飼い主が意図的に送っていた合図に反応していたに過ぎないことが判明した。このような擬人的解釈に基づく動物研究の傾向に歯止めをかけたのが、「効果の法則」とも呼ばれる、「モーガン（Morgan, C. L.）の公準」であった。
- 2 実験室内での統制された状況下での動物の行動を研究する動物心理学に対して、エソロジー（ethology）は自然環境下での種に固有な「本能行動」に焦点を当てた研究である。例えばローレンツ（Lorenz, K. Z.）は、ハイイログンのヒナの

生後初期に生じる親鳥に対する追従行動を詳細に検討している。彼が「刻印づけ(imprinting)」と呼んだ行動は、同種の親鳥に対してのみ成立する、限定された期間でのみ成立する、一度成立すると恒久的に影響を与え続けるという特徴をもっており、動物の本能行動が、環境からの刺激がなくとも、種に固有な遺伝的な要因によって発現することを明らかにした。

- 3 ゲシュタルト心理学者のケーラー (Köhler, W.) は動物による問題解決を調べることによりその知能を検討した。チンパンジーを被験対象とした実験では、目標物に到達するための通路の迂回を必要とする「回り道」、目標物に到達するために介在物を必要とする「道具の使用」、既存の道具では成功しないため有効な道具をチンパンジー自身が作り出す「道具の制作」、の三つの状況を設けて観察した。このような問題解決状況では、解決に先立って探索的な行動が繰り返されることもあるが、解決それ自体は突如出現する。このように状況についての認知の再体制化により問題解決のための手がかりが獲得される過程をケーラーは「洞察」と呼んだ。
- 4 ダーウィンのいとこであるゴールトン (Galton, F.) は、「相関」という統計的概念を開発して、人間の遺伝的特性と個人差について先駆的な研究を数多く行ったが、中でも「双生児法」は、現在でも人間行動遺伝学の主要な研究方法として受け継がれている。人間行動遺伝学では、ある形質や能力における一卵性双生児の相関係数と二卵性双生児の相関係数の差異に基づいて「遺伝率」が推定される。特に知能検査の得点における一卵性双生児と二卵性双生児の相関係数には大きな差異がみられることから、知能における環境の影響は遺伝の影響に比べてかなり大きいと見積もられている。
- 5 ヒトがなぜ大きな脳をもつように進化したかという疑問に対して、バーン (Byrne, R.) は「マキャベリの知能仮説」を展開している。この説ではヒトの高度な知能は、物理的な環境に対する適応よりも、むしろ社会的環境に対する適応として進化したと主張している。ヒトは、脳全体に占める大脳新皮質の割合が大きいのが、これは、社会構造が複雑になり集団内での他の個体とのかけひきや協力、時には相手を欺くといった能力が生き残りに必要となったためであるとされる。バーンによれば、道具の使用はヒト以外の類人猿でも観察されるが、意図的に他の個体を欺くような行動は他の霊長類には認められずヒトのみに観察される。

①の解答 3

解答のポイント

1は「モーガンの公準」は正しくは「節約の法則」と呼ばれている。

- 2は「同種の鳥に対してのみ」が間違い。おもちゃの電車や光点にまで刻印づけが生じることが報告されている。
- 4は最後の節「知能における環境の影響は遺伝の影響に比べてかなり大きい」が誤り。IQの相関でいうと一卵性は0.72、二卵性は0.42というデータがある（安藤、2012）。
- 5は最後の節「意図的に他の個体を欺くような行為は…ヒトのみに観察される」が誤り。類人猿も欺きなどの行為を行うことが報告されている。

2 感覚知覚

②日常的に遭遇する図（figure）の見え方に関する記述として最も正しいのはどれか。（国総 H24）

- 1 視野の中に複数の図が存在する場合、我々はそれらの図の配置に基づいて、ある一定の見かたをしている。その一つの例として、近接の要因を挙げることができる。これは、物理的に近接している複数の図を相互に類似したものとして知覚する傾向のことであり、日常的に頻繁に生じる現象である。
- 2 視野の中に複数の図が存在する場合、それらの図の見え方が、我々の誕生後に遭遇した種々の経験によって影響を受けることはない。なぜならば、それらの図の見え方は、我々が経験を通して獲得した情報ではなく、図自体が持つ物理的特性からの影響を大きく受けているからである。
- 3 視野の中に複数の図が存在する場合、我々は、視野全体のまとまり具合というよりも、それぞれの図の独自な性質から影響を受けて、それらの図をみているといえる。こうした傾向をゲシュタルト心理学者であるウェルトハイマー（Wertheimer, W.）は、プレグナンツの傾向（法則、原理）と呼んだ。
- 4 視野の中に図が存在する場合、背景がどのような図柄であっても、我々はそれらの図を簡単に知覚することができる。ただし、背景が一様でなく複雑な図柄の場合は、背景が図の背後にも広がって知覚するのではなく、図が背景に埋め込まれているように知覚する傾向がある。
- 5 視野の中に存在する複数の図が、閉じた領域を作るように配置されている場合、我々は、それらの図を一つのまとまりとして知覚する傾向がある。これは閉合の要因と呼ばれ、背景に対してどの部分が図になりやすいかという図と地の分化の場合にも働いている要因である。

②の解答 5

解答のポイント

- 1は「複数の図を相互に類似したものとして知覚」が誤り。「…相互にまとまりのあるものとして知覚」が正しい。
- 2は経験の要因は Wertheimer も一応指摘している。また主観的輪郭や一部の幾何学的錯視は現実の三次元空間の見えとの関連が指摘されている（例えば Gregory）し、ついでに言えば「ダルマチア犬」の見え方も経験が影響している。
- 3は「それぞれの図の独自の性質から影響を受けて」が誤り。プレグナンツの傾向は、「視野が全体として最も簡潔な、最も秩序あるまとまりをなそうとする傾向」（『心理学辞典』有斐閣）である。
- 4は背景の図柄によっては簡単に図を知覚することができない場合がある。

③ある実験参加者の両手の手のひらにおもりをのせ、一方のおもり（標準刺激）の重量を固定し、もう一方のおもり（比較刺激）の重量を少しずつ減じていく操作を行ったところ、標準刺激が100gの場合、比較刺激が94グラムとなったときに、実験参加者はおもりの重さの差異を初めて弁別できたとする。

標準刺激の重量を300gに変更して同様の実験操作を行ったとき、この実験参加者によって初めて弁別可能となる比較刺激の重量として最も妥当なのはどれか。ただし、ここではウェーバーの法則が成立しているものとする。（法専 H24）

1 276g 2 282g 3 288g 4 292g 5 294g

③の解答 2

解答のポイント 弁別閾が6g、原刺激は100g→300g なので3倍。ウェーバーの法則は「原刺激量に対する弁別閾の割合は常に一定」なので、 $6 \times 3 = 18\text{g}$ となる。したがって、原刺激300gのとき初めて弁別可能になるのは282g。

3 学習

④ Read the following passage and select the most suitable statement about aversive learning. (国総 H24)

A famous example of biologically prepared learning is taste aversion. The taste aversion violates several of the old assumptions about animal learning. The gap between the cue (CS) and the biological response (UCR) can be very long, the aversion to a food can be learned in just one trial, and taste aversion violates the

assumption of the equivalence of associations, because the illness is almost always blamed on food, even if it is due to some other factor such as a flu virus.

The highly selective nature of food aversion is called the Garcia effect. John Garcia showed that animals associated illness with food, even if the illness was caused by something else. If rats got sick from a dose of radiation after drinking saccharin-flavored water in a cage illuminated with red light, the rats later avoided saccharin-flavored water. But they did not avoid red light. Similarly, if they got shocked after tasting the water, they learned to avoid the environment where they got shocked, but they did not learn to avoid the water.

- 1 Food aversion is coming from operant conditioning, not from classical conditioning.
- 2 The Garcia effect demonstrates that some kinds of animal's learning are not arbitrary but semantically constrained.
- 3 Food aversion is quite unique as learning because taste can always be learned from any kinds of CS.
- 4 The highly selective nature of aversion means that even though the illness has many causes, animal learn that an environmental factor is its main reason.
- 5 The rat cannot learn the connection between color of the light in the cage and receiving shocks.

④の解答 2

解答のポイント 味覚嫌悪条件づけ（ガルシア効果）の機序を知っていれば解ける問題。ある種の動物の学習は条件づけの法則に従って偶然に（恣意的に）起こるのではなく、生得的に意味のある制約が働くということ。

- 1は食物嫌悪がオペラント条件づけで生じるというのが誤り。
- 3は味は常にCSによって学習されるとしているのが誤り。
- 4は嫌悪が高度に選択的な性質を持つのは環境からの学習が主たる理由というのが誤り。
- 5はラットはケージの中の光の色と電気ショックの連合を学ぶことはできないというのが誤り。

⑤スキナー箱を用いて、ハトのキーつき反応（以下、反応という）のパターンを測定する実験を行った。次の選択肢は、定時隔（fixed interval）強化スケジュール、変時隔（variable interval）強化スケジュール、定比率（fixed ratio）強化スケジ

ール、変比率 (variable ratio) 強化スケジュール, 低反応率分化強化 (differential reinforcement of low rate) スケジュールの下でそれぞれ生じやすい反応パターンについて記したものである。このうち、定時隔 (fixed interval) 強化スケジュールの下で生じやすい反応パターンの記述として最も妥当なのはどれか。(法専 H24)

- 1 強化刺激が出現した後、しばらく反応を休止する。その後、反応を再開すると、時間経過とともに反応の頻度は増し、次に強化刺激が出現する直前に最も高頻度になる。
- 2 強化刺激が出現した後、反応を休止することはほとんどなく、非常に高頻度の反応が一定のペースで持続する。
- 3 強化刺激が出現した後、反応を休止することはほとんどなく、比較的低い頻度の反応が一定のペースで持続する。
- 4 強化刺激が出現した後しばらく反応を休止する。その後、反応を再開してからは次に強化刺激が出現するまで、一定の頻度で休まず反応する。
- 5 強化刺激が出現した後、しばらく反応を休止する。また、反応しても強化刺激が出現しなかった場合、極めて短い時間間隔で連続した反応が出現する。

⑤の解答 1

解答のポイント 定時隔 (fixed interval) 強化スケジュールといえば「FI スケジュール」つまり、四つの基本スケジュールの中では、スキヤロップ現象など、累積反応記録の描かれ方が一番わかりやすいスケジュールである。

2はVR スケジュール。

3はVI スケジュール。

4はFR スケジュール。

5は本問で取り上げられているどの強化スケジュールにも当てはまらない。DRL (定反応率分化強化スケジュール) は、決められた反応率以上の速さで反応すると強化子は与えられないスケジュールであるため、反応の頻度は落ちる。

4 認知

⑥概念およびカテゴリに関する記述として最も妥当なのはどれか。(国総 H24)

- 1 ロッシュ (Rosch, E.) は、カテゴリは三つの水準からなる階層構造を持つと考えた。例えば、動物、イヌ、チワワは、順に上位水準、下位水準、基本水準に相当する。このうち、概念獲得の基盤となり、最も情報量が多いのは基本水準であるとし、その特徴として、発達の最も早期に学習されること、カテゴリ間の相互の区別が容易であ

- ること、日常の認知活動において頻繁に利用する水準であることなどを挙げている。
- 2 ロッシュとマーヴィス (Rosch, E. & Mervis, C. B.) は、家族的類似性の概念に基づくモデルを提唱した。これは、全ての事例が共有する定義的特徴ではなく、多くの事例が部分的に共有するような特性的特徴を通じて事例が相互に結びつき、概念としてのまとまりを作り出しているというようなモデルである。しかし、家族的類似性の高さと同典型性の高さの間に関連が認められておらず、典型的な事例ほどカテゴリに分類される速度が速いなどの典型性効果と矛盾するという問題点がある。
 - 3 プロトタイプ・モデル (prototype model) では、カテゴリ内の事例の特徴情報を抽象化し、統合した典型的な表象 (プロトタイプ) を用いて、それとの類似性の判断によって事例のカテゴリ化がなされるとする。このモデルは、典型性効果をうまく説明できる一方で、カテゴリの特徴間の関係 (例えば、羽がある事例は、飛ぶという特徴を備えている可能性が高い) や特徴のばらつき (例えば、イヌの大きさにはばらつきがある) などについて、人は判断できるということをうまく説明できない点が問題点として挙げられる。
 - 4 事例モデル (exemplar model) では、カテゴリの表象は単一のプロトタイプに集約されるのではなく、カテゴリの個別事例がそのまま記憶されているとする。事例のカテゴリ化は、その事例と以前に学習された個々の事例の集合的な類似性に基づいて決定されるのである。このモデルは、アドホック・カテゴリ (「バザーで売る物」のように、特定の目的に応じて構成されるカテゴリ) の一見ばらばらに見える事例が、目的に応じてまとまった概念を構成する現象を説明する枠組みとして提唱された。
 - 5 理論に基づくモデル (theory-based model) では、概念としてのまとまりを作り出しているのは類似性ではなく、何らかの理論や知識、説明の枠組みであるとする。従って、概念形成には、その概念を定義し、説明するのに必要十分な特徴が必要であり、その概念に属する全ての事例がその共通特徴を備えているとした。概念が獲得される過程を調べたブルーナー (Bruner, J.S.) らの実験は、このモデルの基づいたものである。

⑥の解答 3

解答のポイント

- 1 は正しくは、「動物、イヌ、チワワは、順に上位水準、基本水準、下位水準」である。この部分以外は妥当。
- 2 は家族的類似性の高さと同典型性の高さに関連があることが実証されている (改田, 1986 など)。
- 4 は三文目が誤り。アドホック・カテゴリを説明する枠組みとして提唱されたのは理論へ

ースモデルである。

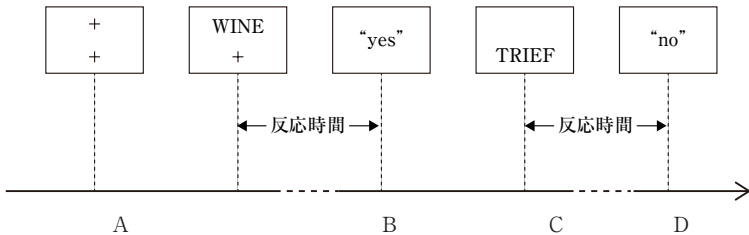
5は二文目（「従って」で始まる文）以降は、理論ベースモデルの説明ではなく、定義的特性（特徴）理論の説明である。

⑦次は、ある心理学の実験についての記述である。A～Dに当てはまる語句の組合せとして最も妥当なのはどれか。（法専 H24）

先行刺激として、“WINE”（「ワイン」）や“BAME”（無意味綴り）などの文字列が実験参加者に対して一つ視覚呈示され、それが有意味語であるか否かについての回答、すなわち語彙判断が求められる。次に、後続刺激として“HAIR”（「髪の毛」）や“TRIEF”（無意味綴り）などの文字列が一つ視覚呈示され（先行刺激は画面に映されていない）、再び語彙判断が求められる。これら2回の語彙判断において、判断に要した時間（反応時間）が計測される（下図参照）。

このとき、先行刺激として“BREAD”（「パン」）が呈示された場合には、後続刺激として（ A ）が呈示されると、後続刺激として（ B ）が呈示された場合に比べて語彙判断の反応時間が（ C ）。この現象は（ D ）効果と呼ばれ、意味記憶の記憶構造や検索メカニズムが影響していると考えられている。

注視点呈示 先行刺激呈示 先行刺激への反応 後続刺激呈示 後続刺激への反応



- | | A | B | C | D |
|---|-----------------|-----------------|------|--------|
| 1 | “DOCTOR”（「医者」） | “BUTTER”（「バター」） | 短くなる | 新近性 |
| 2 | “DOCTOR”（「医者」） | “BUTTER”（「バター」） | 短くなる | プライミング |
| 3 | “DOCTOR”（「医者」） | “BUTTER”（「バター」） | 長くなる | 新近性 |
| 4 | “BUTTER”（「バター」） | “DOCTOR”（「医者」） | 短くなる | プライミング |
| 5 | “BUTTER”（「バター」） | “DOCTOR”（「医者」） | 長くなる | 新近性 |

⑦の解答 4

解答のポイント メイヤーら（Meyer, Schvanevelt, & Ruddy, 1975）の語彙判定課題における意味プライミングを示した実験。これまでもたびたび出題されている。解説は、本冊（『試験にできる心理学 一般心理学編』増補改訂版, p.247-248）を参照のこと。

5 教育

⑧既有知識と学習に関する記述として最も妥当なのはどれか。(国総 H24)

- 1 概念地図法による学習では、学習者は概念を表すノードを結合線でつないでいき、ネットワークとして外的に構成することで、学習者が概念間の関係を深く理解することを目指す。概念地図は学習者が既有知識の状態を視覚的に把握できるだけでなく、学習内容の構造を見出そうとする動機づけを学習者にもたらすことができるとい点で重要である。これは機械的学習の流れをくむものと位置づけることができる。
- 2 「ある特定の状況で行われるであろう一連の行動の知識」は物語文法と呼ばれ、このような日常世界に関する一般的な知識が文章を正しく理解するためには必要である。例えば、文章の中に、ある人が日常的に繰り返し遭遇する事象の一部が含まれているとすると、読み手は物語文法の働きによって、明示的に書かれていない他の部分も再生し、理解することが可能になる。
- 3 新しい知識を獲得する過程は、有意味受容学習 (meaningful reception learning) の枠組みで研究されている。学習者の誤った既有知識が新しい概念や知識の獲得を妨害することが示されているが、有意味受容学習は、学習者が持っている既有知識を教授者に示し、教授者が誤った知識を修正していくことで学習を促進する学習方法である。
- 4 先行オーガナイザーは、知識獲得を促進する方法である。これは、短い具体性の高い文章を本文章に先立って導入することで、関連する知識構造を活性化させ、本文に提示される抽象度の高い新しい情報を知識構造内にとどめやすくするという点である。先行オーガナイザーは、新しい情報に合わせて既有知識を再編することで学習を促進できると考えられる。
- 5 文章読解の際には、スキーマと呼ばれる読み手のもつ既有知識が学習を促進する。スキーマは過去の経験や外部環境についての構造化された知識である。テキスト内容と関連する領域の既有知識が豊富な者は、そうでない者と比べて、深い読み取りができることが研究により示されている。

⑧の解答 5

解答ポイント 「教育心理学」のジャンルで出題された問題。

- 1 は最後の一文、「機械的学習の流れをくむもの」が誤り。概念地図法は Novak によって提唱されたもので、Ausubel の有意味受容学習の流れをくむもの。
- 2 は一行目、「物語文法」が誤り。正しくは「スクリプト」である。
- 3 は最後の二行、「学習者が持っている既有知識を教授者に示し…学習を促進する」が誤り。

有意味受容学習では、学習者が新たな知識を既有知識に関連づけやすくなるよう、学習材料の提示に先立って、先行オーガナイザーと呼ばれる情報を学習者に提示する。

- 4は先行オーガナイザーは「知識獲得を促進する方法」ではない。正しくは、「知識獲得を促進するために、学習材料に先行して提示される情報」である。また、最後の一文も誤り。正しくは「先行オーガナイザーは、新しい情報が、既有の知識構造内に組み入れられ、関連づけられやすくなることで、学習を促進すると考えられる」。

6 社会

⑨次は、社会的ジレンマ状況における社会的影響過程を説明するモデルを記述したものである。図で示された状況及びモデルによって予測される状況に関する記述として最も妥当なのはどれか。(国総 H24)

電力の受給が逼迫し節電を求められている状況で、単純に考えると私たちには二つの選択肢がある。すなわち節電するか、しないかである。1人、2人くらい節電せずに好きなだけ電気を使っても電力の需要全体にはほとんど影響はないだろう。そして節電しない人は節電している人よりも快適な生活を送ることができる。しかし、節電しない人が増えて全員あるいはほとんどの人が節電しなくなると、計画停電をせざるを得なくなったり、あるいは大停電が起きたりといった最悪の事態が生じてしまう。

この場合、「何が何でも節電する」という人や「絶対節電しない」という人はおそらくごく少数で、多くの方は自分の周りの人の行動を参考にして自分の行動を決定している。例えば「私の周りの人も結構節電しているから自分も節電しよう」という具合である。この「周りの人の～割くらいが節電しているから自分も節電しよう」というときの「～割」は人によって異なると予想される。

図1の二つの棒グラフは、10人程度の集団で様々な考えを持った人がどのように分布しているかを示している。図の横軸は、ある時点で協力している人々の人数を示している。図1の上の棒グラフの高さは、自分が協力をするためには、自分以外に少なくとも横軸に示された人数以上の人々が協力している必要がある、と考えている人の人数を示している。例えば2人以上の人が協力していれば自分も協力しようと考えている人が1人いることを示している。横軸が0の時に「1人」となっているが、これは「誰も協力していなくとも自分は協力する」と考えている人である。横軸が10の時に「2人」となっているが、この集団は10人であり、自分を除く全員が協力しても9人にしかならず、10人が協力しているということは現実にはあり得ないので、この2人は他の全員が協力しても自分は協力する意志がないことを意味する。

図1の下の棒グラフは、上の棒グラフを累積したものである。したがって、下の棒グラフの高さは、自分以外に横軸に示された数の協力者がいるならば、自分も協力しようという人の総数を表している。例えば、誰も協力していなくても自分は協力するという人が1人いて、2人協力していれば自分も協力するという人が1人いるので、協力者が自分以外に2人いるならば自分も協力しようという人は合計2人いることになる。したがって、横軸が2の場合には、棒グラフの高さも2となるわけである。また横軸が9の場合、すなわち自分以外の全員が協力している場合、自分も協力しようという人は、合計8人いることがわかる。

この下の棒グラフを一般化したものが図2である。この図に示された横軸は、ある時点で協力している人のパーセンテージを表しており、これを協力率と呼ぶ。縦軸は、それだけのパーセンテージの人が協力しているなら自分も協力しようと思っている人のパーセンテージを示している。この図は、ある集団における協力傾向の累積分布の一例にすぎず、別の場合や別の集団では異なった形になる。

- 1 社会的ジレンマは四人のジレンマを3人以上の集団に拡大したものと考えることができる。図2に示されるように、集団の人数が多くなればなるほど協力行動を維持することが容易になる。これは、1人の非協力的な行動の周囲に及ぼす影響が分散されるためである。
- 2 図2より、協力者が新たな協力者を生み、あるいは非協力者がさらなる非協力者を生じさせるといったドミノ的プロセスの存在が予想される。特に後者のような悪循環は社会的ジレンマにおける「二次的ジレンマ (second order dilemma)」と呼ばれている。

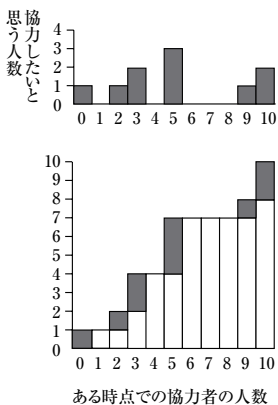


図1

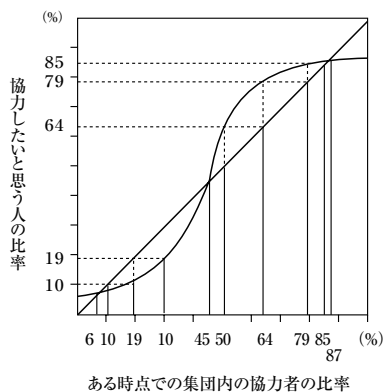


図2

- 3 図2に示されるように、集団内の協力者が相互に影響を及ぼしあっても、非協力者を集団から完全になくすことはできない。図2の集団では、最も協力量が高い状態であっても全体の6%ほどの非協力者が集団内に維持され続け、一方的に集団からの利益を享受し続けると予想される。
- 4 集団内における人々の協力傾向が同じ場合であっても、最初にどれだけの人が協力しているかによって、最終的な協力量が変わってくる。図2の集団では、最初に協力行動を示している人の比率が集団の45%を超えているか満たないかによって、最終的な集団の協力量は大きく変わってくると予想される。
- 5 当初の協力量が高い場合でも、集団の力動によって最終的な協力量が低くなる場合がある。例えば、図2の集団では、最初に協力行動を示している人数の比率が87%の場合でも、最終的な協力量が6%になりうることを示されている。

⑨の解答 4

解答ポイント 亀田・村田『複雑さに挑む社会心理学』(2000年、有斐閣アルマ)の、「社会的影響」の部分(同書の改訂版ではp.45以降)で出てくる、M. Granovetterの「閾値モデル」の話である。社会的影響過程において、「周囲の○割が行動を起こしたら自分もそうする」という現象がよくあるが、その「周囲の○割が行動を起こしたら」の部分が「社会的感受性に対する閾値」である。この問題文では、最初の協力者が45%という比率(閾値)を超えれば、その後もどっと相次いで協力するようになるということで、45%がその現象の拡大・収束の分かれ目になる(=限界質量)ということを示している。

余談だが、社会学者でもあるGranovetterは、weak ties(弱い絆)という概念でもよく知られる。これは、転職の際に、日常的に親密な関係のネットワークからの情報よりも、普段は疎遠な関係の人々(これが「弱い絆」)からの情報の方が役立ったという研究から唱えられた概念である。

- 1は二文目以降が誤り。図2は「協力行動を維持することが容易になる」ことを意味しているのではない。
- 2は「後者のような悪循環」は二次的ジレンマではなく、ふつうの社会的ジレンマ状況。二次的ジレンマとは、元のジレンマ状況において生じた非協力者を罰するか罰しないかという派生的なジレンマ状況を指す。
- 3は「6%」が誤り。図2の集団では、最も協力量が高い状態であっても15%ほどの非協力者が維持され続けると予想される。
- 5は「87%」が誤り。図2の集団では、最初に協力する人の比率が45%を切る場合は、最終的な協力量が低くなる方のドミノのプロセスが生じる可能性がある。

⑩パットナム (Putnam, R. D.) が「個人間のつながり、すなわち社会的ネットワーク、及びそこから生じる互酬性 (reciprocity) と信頼性の規範」と定義したソーシャル・キャピタル (social capital, 社会関係資本) に関する記述として最も妥当なのはどれか。(国総 H24)

- 1 パットナムは、ソーシャル・キャピタルを増加させる要因として、テレビを始めとする電子メディア的娯楽の増加、仕事時間や通勤時間の増加、世代が同じであることなどを挙げている。このうち、特に電子メディア的娯楽の要因を重視しており、世代変化が進む中でも、電子メディア的娯楽によって共通認識や相互理解の土壌が醸成されるとした。
- 2 我が国の内閣府国民生活局 (2003) が、以下の変数を用いて都道府県別のソーシャル・キャピタル指数を算出している。すなわち、①付き合い・交流 (近隣での付き合い、友人や趣味を通じた付き合い)、②信頼 (一般的な信頼度、友人や近隣、親戚への信頼度)、③社会参加 (地縁的な活動参加状況、ボランティア活動参加率、人口一人当たりの共同募金額) の変数である。その結果、ソーシャル・キャピタル指数が高かったのは奈良県、東京都、大阪府であり、逆に低かったのは島根県、鳥取県、宮崎県であった。
- 3 パットナムによれば、ソーシャル・キャピタルにはポジティブな側面とネガティブな側面がある。前者は、個人間の相互扶助、協力、信頼などがもたらされることである。後者は、派閥の形成、自民族中心主義、汚職などである。前者には、橋渡し型 (bridging) ソーシャル・キャピタルが関連し、後者には結束型 (bonding) ソーシャル・キャピタルが関連しているといえる。
- 4 パットナムは、複数の指標を用いて米国におけるソーシャル・キャピタルの経年変化を捉えている。所属グループの平均数をはじめとする「コミュニティ内組織への積極的な参加」、例えば「大半の人は信頼できる」という質問項目への賛成度に基づく「社会的信頼」などの指標を用いたところ、米国のソーシャル・キャピタルが1975年から1999年にかけて増加していることが見出された。
- 5 ソーシャル・キャピタルという概念は、対面状況のコミュニティには当てはまるが、インターネット上のコミュニティには当てはまらないといえる。ソーシャル・キャピタルの重要な側面は、複数の個人が相互に信頼し合い、相互に助け合うという互酬性の規範に基づいた行動をとることであり、インターネット上の、直接的な対面状況にない個人間には、そうした信頼感や互酬性は醸成されないと考えられるからである。

解答のポイント 「ソーシャル・キャピタル」は初出題である。この概念のもつ特性ゆえであろうが、選択肢の2のような社会データを含む問題が社会心理学のジャンルで出題されるのも珍しい。

- 1は「テレビを始めとする電子メディア的娯楽の増加, 仕事時間や通勤時間の増加」は「増加させる要因」ではなく、「減少させる要因」である。
- 2はソーシャル・キャピタル指数が高いところと低いところがおおよそ逆である。
- 4は最後の一節が誤り。「増加している」のではなく、正しくは「減少している」。
- 5は「インターネット上のコミュニティ」にも当てはまる。

※ソーシャル・キャピタル (Social Capital) は「社会関係資本」とも訳され、「『信頼』『規範』『ネットワーク』といった社会組織の特徴であり、共通の目的に向かって協調行動を導くものとされる。いわば信頼に裏打ちされた社会的な繋がりあるいは豊かな人間関係」(内閣府, 2003)と捉えられる。政治学者 R. B. Putnam がアメリカではコミュニティの崩壊によってソーシャル・キャピタルが減少しつつあることを著書『Bowling Alone (孤独なボーリング)』で指摘した。

参考：浦光博『排斥と受容の行動科学』2009年、サイエンス社（セクション社会心理学25）内閣府（2003）平成14年度 ソーシャル・キャピタル：豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて <https://www.npo-homepage.go.jp/data/report9.html> (2012/12/30)

⑩他者との比較に関する記述として最も妥当なのはどれか。(法専 H24)

- 1 社会的比較過程の理論では、人間には自己評価への欲求があり、自分と能力や意見が類似した他者との比較を行うが、能力や成績に自信のある者は、自分より劣る他者と比較する傾向が強いとされている。
- 2 自己評価維持モデルでは、他者との比較過程で、自己関与度の高い課題における心理的に近い他者の優れた遂行は自己評価を上昇させるとされており、これは一般に栄光浴 (basking in reflected glory) と呼ばれている。
- 3 社会的比較過程の理論では、自分より不運な他者と自己を比較することで主観的な安定感を得ようとする傾向を下方比較 (downward comparison) と呼び、時には他者への非難や中傷、社会的弱者への攻撃行動が生じるとしている。
- 4 自己評価維持モデルによれば、人は、誰にも負けたくない科目で自分より優れ、負けても気にならない科目で自分よりも劣るものを「一緒にいたい人」として選択する傾向があるものと考えられる。
- 5 社会的比較過程の理論によれば、テストの成績が良くなかった者は、他の者の成績が悪いと告げられたときよりも、他の者の成績がよいと告げられた時の方が、他の者の成績を知りたがると考えられる。

⑩の解答 3

解答のポイント

- 1は最後の節が誤り。自分より劣る他者と比較する傾向が強いの、能力や成績に自信がない者である。
- 2は「栄光浴」は正しくは、「自己関与度の低い課題における心理的に近い他者の優れた遂行が自己評価を上昇させる」ことである。
- 4は Tesser によれば、「誰にも負けたくない科目で自分より劣り、負けても気にならない科目で自分よりも優れるものを『一緒にいたい人』として選択する傾向」がある
- 5はテストの成績が良くなかった場合、自己評価が下がり、下方比較が起こりやすくなるので、「他の者の成績が悪いと告げられた時の方が、その他者の成績を知りたがる」。

7 発達

⑫乳幼児期の発達に関する記述として最も妥当なのはどれか。(法専 H24)

- 1 ボウルビィ (Bowlby, J.) は、特定の対象に対する特別な情緒的結びつきを愛着 (attachment) と名付け、乳児期に、愛着対象とその他を区別した行動が見られない段階から、愛着行動が極めて活発になる段階を経るとした。そして、成長とともに特定の対象に対する愛着は消失するとし、これがいつまでも残存すると、その後の自立や社会性の伸長を阻害するとした。
- 2 エインズワース (Ainsworth, M. D. S.) らは、乳児期の母子間の情緒的結びつきの質を観察し、その測定法としてストレンジ・シチュエーション法を開発し、乳児の反応に基づき、三つの類型に分類した。このうち、母親との分離場面では激しく泣き、再会場面では身体的接触を求めると同時に母親を叩くなど、分離に伴う怒りの感情を素直に示せるタイプを「安定型」とした。
- 3 マーラー (Mahler, M. S.) は、新生児は母親との共生状態にあるとし、そこから自己像と他者像が分化していくと考えた。他者の区別が始まり、やがて安定した他者像を内在化させる過程は分離-個体化過程と呼ばれ、4段階に分けられる。そのうちの「再接近期」では、子どもは分離について両面的な状況であり、この時期に母親の応答が不適切な場合、再接近期危機と呼ばれる不安定な状態に陥るとした。
- 4 エリクソン (Erikson, E. H.) は人の発達を8段階に分け、各段階特有の課題を対概念で示した。それによれば、乳児期の発達課題は「基本的信頼」対「基本的不信」であり、心の深いところで自己肯定し、世界への基本的信頼を培っていくことであるとした。一方、不信の感覚は否定的な自己像につながるため経験すべきではないとし、養育者は徹底的に乳児の行動を受容することが重要だとした。

- 5 ファンツ (Fantz, R. L.) らは、乳児の興味や視覚的能力を観察するための手法として選好注視法を開発し、実験的研究を行った。それによれば、目の前に複雑さの異なる二つの図形を並べて提示されると、生後1年頃まではどちらの図形も同程度の長さで注視するが、生後1年を過ぎると、より複雑な刺激や人間の顔が描かれたものを長く注視するとした。

⑫の解答 3

解答のポイント 発達の問題は、認知発達等の実験系の問題も出題される一方、精神分析的なアプローチもよく出題されている。特に M.S. Mahler の分離－個体化過程の理論は近年択一で頻出である。Mahler のみならず精神分析的発達理論では、Spitz の「3か月の無差別な微笑」や「8か月の人みしり不安」、Winnicott の「原初的没頭」「ほどよい母親」「移行対象」など、Klein の「妄想－分裂態勢」と「抑うつ態勢」など、確認しておこう。

1 は二文目が誤り。愛着は消失することはない。その後の自立や社会性のためにも重要。

2 は二文目が誤り。「安定型」ではなく、「アンビバレント (抵抗)」型。

4 は三文目がすべて誤り。不信の感覚を経験することも必要。全体として不信より信頼の感覚の経験が優るとするのが大事。

5 は生後6か月で解像度(視力)は急速に高まり、複雑な刺激を好むようになる。また Fantz (1961) によれば、生後5日以内の新生児でも、人の顔、新聞紙面、同心円、白、黄、赤といった刺激を見せると人の顔を最も長く注視する。

⑬次は、安藤ら (1992) による2種類の英語教授法の比較研究の概略である。得られた結果の図として最も妥当なのはどれか。(国総 H24)

<実験参加者の適性の測定> 英語学習経験のない小学5年生を対象に、適性をみる検査として集団式知能検査(言語性知能検査と非言語性知能検査を含む)を実施し、その中の90名を、コミュニケーション・アプローチ(CA)群と伝統的な文法中心教授法(GA)群に、各群の総知能偏差値の平均値が等しくなるように割り当てた。適性の測定は、総知能偏差値、言語性知能偏差値、非言語性知能偏差値である。

<授業> 10日間にわたって1日当たり正味90分間の授業を実施した。授業はあらかじめ作成された群ごとの共通の教案に従って行われた。

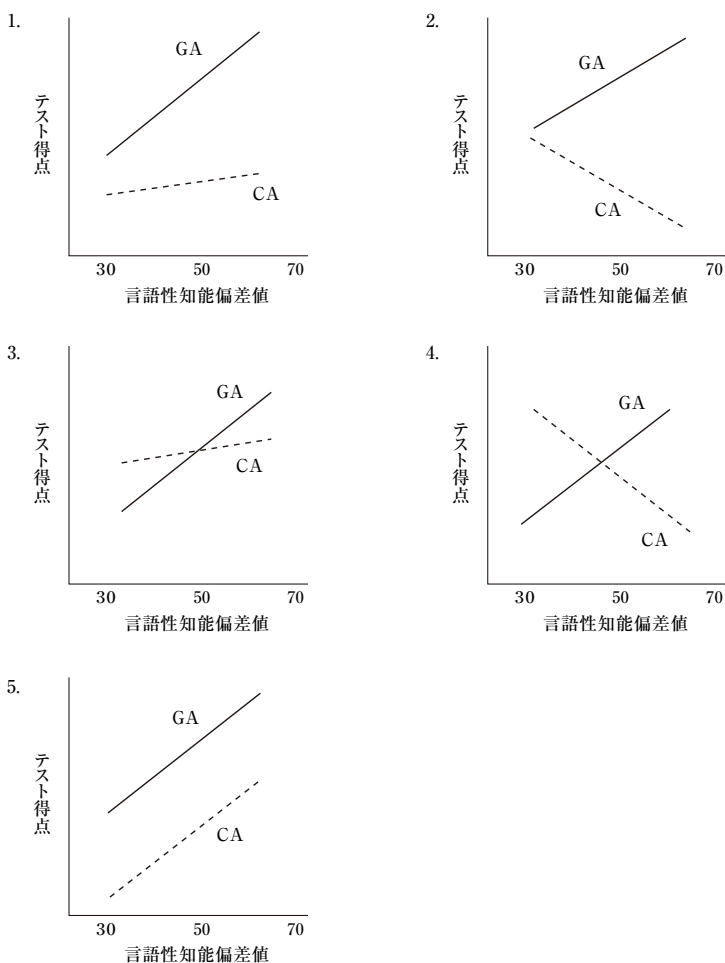
CA群: 文法的説明や日本語訳は行わず、特に実際場面での有意味な言語使用をする活動が授業の大部分を占めるようなカリキュラムを作成した。例文を筆記させるような活動も行わず、口頭によるパターン・プラクティスや生徒どうしのやりとりが主な活動であった。

GA 群：授業全体を通じ、英語では規則を覚えることが重要であることを強調した。文法項目ごとに「例文導入→文法的説明→口頭によるパタン・プラクティス→筆記による確認」の順で授業が構成され、文法的説明では板書や配付プリントの中で文の構想や変換規則が明確になるように努めた。

表 重回帰分析による有意性

適性	適性の主効果	教授法の主効果	交互作用
総知能偏差値	**	<i>n.s.</i>	**
言語性知能偏差値	***	<i>n.s.</i>	**
非言語性知能偏差値	*	<i>n.s.</i>	**

* : $p < .05$, ** : $p < .01$, *** : $p < .001$



<評価> 授業期間の最後に集団式筆記による英語のテストが実施された。

<結果> それぞれの知能偏差値ごとに、適性の主効果、教授法の主効果及び適性×教授法の交互作用を独立変数、テスト得点を従属変数とする重回帰分析で行った。ここで教授法は、例えばCA群に「1」、GA群に「-1」を割り当てるといった方法で変数化した。表は、その結果を表したものである。言語性知能のような知的能力特性に対して、CAは補償的に効き（compensate）、またGAは特恵的に効く（capitalize）というパターンが見出された。

⑬の解答 3

解答のポイント 表から、言語性知能（適性の測度の一つ）については、適性の主効果があり、交互作用があり、ついでに「言語性知能に対してCAは補償的、GAは特恵的」ということで、正答は3をおいてほかはない。この問題は安藤寿康の研究を題材としている。手短なところでは、『遺伝子の不都合な真実』（2012年、ちくま新書）や『心はどのように遺伝するか』（2000年、講談社ブルーバックス）にも紹介されている。特に前者は、近年の行動遺伝学の知見がわかりやすく紹介されているのでお勧めである。

8 パーソナリティ

⑭ パーソナリティ理論に関する記述として最も正しいのはどれか。（国総 H24）

- 1 ユング（Jung, C. G.）は人間には相反する基本的態度が存在すると考え、それぞれを外向型と内向型と名付けた。またこの向性に加えて、思考、論理という合理的機能と、感覚、直感という非合理的機能の二つの軸からなる四つの心的機能があると考えた。ユングによれば人間は心的機能のいずれかが分化・発達し、優越機能となる。ユングは基本的態度として二つの向性と優越機能の組合せによって人間を八つのタイプに分類した。
- 2 オールポート（Allport, G. W.）は、因子分析法や実験的研究などを通じて向性（外向性-内向性）、神経症性（情緒安定-不安定）の2因子類型と、後に追加した精神病性を含めて因子論的類型論を展開した。一方、アイゼンク（Eysenck, H.J.）は、パーソナリティを「個人を特徴づけている行動と思考とを決定するところの精神・身体的システムであり、その個人の内部に存在する力動的な組織」と定義し、アイゼンク人格目録を作成した。
- 3 1980年代以降盛んになった「ビッグ・ファイブ（Big Five）」は特性論の一つで、主要な五つの特性でパーソナリティを包括的に説明できるという考え方である。一

一般的にそれらの特性は、①外向性 (Extroversion), ②神経症傾向 (Neuroticism), ③経験への開放性 (Openness to experiences), ④協調性 (Agreeableness), ⑤誠実性 (Conscientiousness) とされている。ビッグ・ファイブの代表的な研究者にシエルドン (Sheldon, W. H.) がいる。

- 4 クロニンジャー (Cloninger, C. R.) は生物学的気質論を提起し、パーソナリティを新奇性追求 (novelty seeking), 損害回避 (harm avoidance), 報酬依存 (reward dependence), 固執 (persistence) という四つの気質の次元で捉え、これらを生物学的, 進化論的なものと考えた。また, 気質や性格を測る TCI (Temperament and Character Inventory) を作成した。彼はこれらの気質の側面と, ドーパミンなどの神経伝達物質との関連を仮定し, パーソナリティ研究の新しいパラダイムを提案した。
- 5 ケリー (Kelly, G. A.) は, 実存主義の立場から, 人がどのように自分や世界に関する情報を処理するかの違いがパーソナリティであると考えた。彼はパーソナリティ心理学の目的は質問紙検査によってパーソナリティ特性を明らかにすることではなく, むしろ各人が自分や他者を解釈するのに用いている次元を明らかにすることだと主張した。彼の理論はパーソナル・コンストラクト (構成体) 理論と呼ばれている。

⑭の解答 4

解答のポイント

- 1で Jung の四つの精神機能は「思考, 感情という合理的機能」と「感覚, 直観という非合理的機能」の二軸からなる。それ以外の部分は妥当な記述である。
- 2は「Allport」となっているところが「Eysenck」で、「Eysenck」となっているところは「Allport」が正しい。「アイゼンク人格目録」は「サイコグラフ (心誌)」が正しい。
- 3は「Sheldon」が間違い。Big Five 理論では McCrae & Costa, Goldberg などの名前が挙がるだろう。
- 4の Croninger はパーソナリティを, 4つの気質と3つの性格 (自己志向, 協調性, 自己超越) の7次元から構成されるとする。4つの気質と関連する神経伝達物質は以下のとおりである。新奇性追求: ドーパミン, 損害回避: セロトニン, 報酬依存: ノルアドレナリン, 固執: 対応する神経伝達物質は未特定。
- 5「Kelly」は実存主義者ではない。むしろ現象学的理論や構造主義に関連するといわれる。

9 臨床

⑮ベック (Beck, A. T.) の提唱した認知療法に関する記述として最も妥当なのはどれか。(法専 H24)

- 1 この療法においては、クライアントが何に傷つき、どのような経験を隠しているのか、どの方向に進みたいのか、どのように成長したいのかなどについて知っているのはクライアント自身であると想定する。治療者は、クライアントを説得したり解釈したりするのではなく、クライアントの話を傾聴し、受容的かつ共感的な態度で受け入れることを重視する。
- 2 この療法においては、クライアントの示す症状は、学習の原理に従って後天的に獲得されたものであるので、学習の原理を応用した技法によって治療することが可能であると想定する。客観的に観察可能な具体的行動が治療対象であり、症状の背後にある観念内容を問題としない。代表的な介入技法としては、系統的脱感作やフラッシングなどがある。
- 3 この療法においては、意識するには耐えられないような体験は無意識の領域に抑圧され、それがクライアントの不安や葛藤を引き起こすと想定する。そのため、無意識にあるものを意識化することが目指される。技法としては、寝椅子に横たわっているクライアントに対して、頭に浮かんでくることをそのまま話させる自由連想法などが用いられる。
- 4 この療法においてはクライアントが自分を取り巻く世界をどのように捉えているかが、クライアントの感情や行動に大きく影響していると想定する。そのため、感情や行動を混乱させるようなクライアントの考えやイメージを同定し、修正することに主眼が置かれる。治療者とクライアントは、協同作業によって体験を理解したり、思考の内容を検討したりする。
- 5 この療法においては、グループのメンバーの協力を得ながら、クライアントが即興劇的に自己の心の問題や葛藤を表現することで、自己の洞察やカタルシス、他者への理解などが得られると想定する。技法としては、役割交換法や二重自我法などが用いられる。クライアントは演者として、治療者は監督として、他のメンバーは補助自我や観客などとして参加する。

⑮の解答 4

解答のポイント 1はクライアント中心療法、2は行動療法、3は精神分析療法、5はサイコドラマである。

10 統計

統計に関しては、十年程度で重要な内容が変化することはないので、これまで通りの勉強法でほぼ十分である。ただし、全体の解説のところでも触れられているように、パソコ

ンやソフトの進歩により、共分散構造分析がこの十年でも人口に膾炙されるようになってきている。したがって、わずかではあるがごく初歩的な構造方程式モデリングの見方を問うものが出題されることが、ここ数年での目新しい点である。しかしこれも「シケシン」(本冊)で紹介されている古典的なテキスト『Q & A 心理データ解析』(服部 環・海保博之, 1996年, 福村出版)の最終章でほぼ対応できるレベルの簡単な問題である。

「シケシン」でカバーできない傾向としては、「分散分析」に関する問題が比較的頻出している。これは「シケシン」でもこの領域は出題しにくいと、勇み足?で述べてしまったことを受けてのことだろうか。分散分析で学習するポイントは、分散分析表を埋めることを一回はやっておくことである。せいぜい二元配置計画までで十分なので、やはり古典的な『Q&A 心理データ解析』で解説されている分散分析表の自由度や縦と横の数値の関係を確認しておくことである。

統計に関して出題がされなくなったと誤解している受験者がいるが、国家総合職でも地方上級でも一定数はもちろん出題されている。例えば2012年の国家総合職の「心理系(選択A)」「教育・福祉・社会系(選択B)」ともに統計に関する問題が3~4題出題されている。前者ではいわゆる(心理)統計学、後者では社会調査という出題傾向の若干の違いはあるが、根本的に両者の知識は土台が同じである。「シケシン」で勧めた本はいまだに有効である。

「心理系」の心理統計学では「統計的仮説検定」「実験計画」「カイ二乗検定」「多変量分散分析」に関しての問題が出題されており、このうち実際に計算させるのが「カイ二乗検定」の問題であり、この内容は、「シケシン」で解説されているものと全く変わっていない。

「教育・福祉・社会系」の社会調査では、「標本抽出理論」「歪度と尖度(英語)」「偏差値」が出題されており、このうち実際に計算させるのが「偏差値」に関する問題であるが、これも「シケシン」で解説されている正規分布を前提として、平均と標準偏差を計算させるごく簡単な問題である。これらはまた、地方上級などでの頻出問題ともほぼ同傾向のものであり、難易度もそれほど高くないので、こうした基礎的かつ頻出する問題をきちんと押さえることが合格の秘訣である。「心理系」「教育・福祉・社会系」からそれぞれ1題ずつ取り上げて解説しておこう。

⑩表1は、ある大学の学生150名の「文系・理系」と「アルバイトをしているか否か」について調査した結果である。この表の解釈として最も妥当なのはどれか。
なお計算に当たっては、小数点第3位を四捨五入するものとする。また、参考に χ^2 分布表を表2に示す。(国総 H24 心理系)

1 表1の集計表には観測度数5以下のセルが一つあるため、 χ^2 検定はできない。し

表1 大学生の文系・理系とアルバイトをしているか否かの調査結果

	アルバイトをしている	アルバイトをしていない	合計
文系	25	75	100
理系	5	45	50

表2 χ^2 分布表 (χ^2 の臨界値)

df	χ^2 値	
1	3.84	6.63
2	5.99	9.21
3	7.81	11.34
4	9.49	13.28
出現確率	0.05	0.01

たがって、フィッシャーの正確確率検定 (Fisher's Exact Probability Test) を行う必要がある。

- χ^2 値を計算するために、各セルの期待度数を計算した。その結果、「文系・アルバイトをしている」のセルの期待度数は 30, 「理系・アルバイトをしている」のセルの期待度数は 15 であった。
- χ^2 値を計算すると 4.69 であり、5%水準で統計的に有意であった。したがって、この大学では有意水準 5% で、文系の学生の方が理系の学生よりアルバイトをしている比率が高いといえる。
- 2×2 表の連関を表すものにファイ係数 (ϕ) がある。 $\phi = \sqrt{\chi^2}$ であるため、ここでは 2.62 となる。
- 「文系・理系」と「アルバイトをしているか否か」に 1%水準で統計的に有意な連関があるためには、 χ^2 値が 11.34 以上でなければならない。 χ^2 値を計算すると 7.91 であったため、有意水準 1% で両者に連関があるとはいえない。

⑯の解答 3

解答のポイント カイ二乗に関する基礎的かつ古典的な問題 (『試験にできる心理学 統計編』p.106 ~ 参照)。

- 1 のフィッシャーの正確確率は諸説あるが、観測度数ではなく、期待度数が 5 以下の時に用いることを推奨される方法である。観測度数としては 0 であったりする場合は要注意となる。
- 2 は期待度数の割振り方が間違っている。各々 20 と 10 になる。以下、確認のため、期待度数を () で計算しておく。タテ、ヨコどちらでもよいので周辺度数を算出して、その割合で再分配すると期待度数を算出することができる。

$$\begin{array}{ccc}
 25 & (20) & 75 & (80) & \rightarrow & 100 \\
 5 & (10) & 45 & (40) & \rightarrow & 50 \\
 \downarrow & & \downarrow & & & \\
 30 & & 120 & & &
 \end{array}$$

- 3 はカイ二乗値を計算する。2 の時点で期待度数を出しているの、

$$(25 - 20)^2 / 20 + (75 - 80)^2 / 80 + (5 - 10)^2 / 10 + (45 - 40)^2 / 40 = 4.6875$$

したがって、4.69 であり、有意差判断も自由度が (行-1) × (列-1) = 1 ゆえ正しい。

4 はファイ係数とカイ二乗値との関係覚えていなくとも大丈夫である。2.62 を二乗すると 6.8644, したがって誤りである。なおファイ係数とカイ二乗値との関係は、 $\phi = \sqrt{\chi^2 / N}$ であり、これも誤りである。

5 はそもそもカイ二乗値が 3 でも説明したように 4.69 ゆえ誤り。自由度も 1 であるので 1 %水準で有意差があるためには、6.63 以上であればよいということになる。

⑰次のア、イは偏差値についての記述であるが、A、Bに当てはまるものの組み合わせとして最も妥当なのはどれか。(国総 H24 教育・福祉・社会系)

ア z 得点とは、平均 (A), 標準偏差 1 になるように標準化した得点のことである。z 得点を 10 倍して 50 を加えたものを偏差値という。

イ ある市町村の中学校 3 年生全員に国語の学力テストを実施したところ、受験者全体の得点分布は平均 68.0 点、標準偏差 (B) の正規分布をしていた。このテストを受験した A 君の得点 (粗点) は 82 点であり、偏差値は 67.5 であった。

	A	B
1	0	7.0
2	0	8.0
3	0	9.0
4	1	7.0
5	1	8.0

⑰の解答 2

解答のポイント 正規分布を使った推測に関する基礎的かつ古典的な問題である (『試験にでる心理学 統計編』 p.126 ~参照)。

Z 得点とは平均 0, 標準偏差 1 になるように標準化した得点のこと。したがって、A は 0。偏差値 67.5 ということは、Z 得点に換算すると、 $(67.5 - 50) / 10 = 1.75$,

求める標準偏差を S とすると、 $(82 - 68.0) / S = 1.75, S = 8.0$, したがって、B は 8.0 である。

V 地方自治体の心理職・心理判定員の出題傾向

国家公務員試験は新試験制度になったが、地方自治体の大卒程度 (上級) 試験 (地上試験) は今のところ変更はない。以下に、平成 24 年度の地上心理の択一式専門試験問題の

出題テーマの再現を紹介する。

読者はすでにご存知であろうが、東京都や大阪府、大阪市など一部の自治体・政令指定都市を除いて地上の試験問題は持ち帰り不可であり、かつ各自治体等の試験情報サイトでも専門択一試験は一部（2問）しか公表されない。このため、毎年の出題傾向の把握は受験者有志による再現に頼っている。

以下は千葉、宮城、秋田、福島などの自治体を受験した学生たちの報告をまとめたものである。専門択一試験の形式は五肢択一であるが、そこまでの再現はしていない。それでも出題傾向を把握したり、どのような知識が求められるかの確認に役立つであろう。

出題内容は、自治体で「心理」「心理判定員」という職種で募集をされていて専門試験が択一40題であれば、基本的に共通と考えてよい。

平成24年度の傾向を見る限り、従来とまったく変わらない。心理学史から統計までバランスよく出題されている。基本的に大学生が使う心理学書にあるような基本的、古典的な内容がほとんどであるが、グラウンデッド・セオリー・アプローチといった比較的新しいものが出題されていることにも注目したい。

平成24年度 地方上級心理職 択一式専門試験（40問）出題テーマの再現

- 1 心理学史上重要な人物について正しいものはどれか。
 - ▶ 選択肢は、デカルト、ロック、スペンサー、フェヒナー、ロレンツについて。
- 2 精神分析の諸学派についての英文問題で、文中の下線部が表す心理学の学派を選択する。
 - ▶ アンナ派ともクライン派とも違うと書かれていたので新フロイト派が正解か。
- 3 神経細胞の働き（ニューロンなど）について正しいものはどれか。
- 4 自律神経系（交感神経系、副交感神経系）の働きについて正しいものはどれか。
- 5 心的回転についての穴埋め問題。
 - ▶ 穴埋めの内容は、「回転する角度が大きくなるほど時間がかかる」と、イメージ論争の話。
- 6 パタン認識について（THE CATのHとAが同じ形でもそのように読める錯視が提示されていて、それはどのような処理によって知覚されているか）。
 - ▶ 選択肢には、トップダウン処理とボトムアップ処理、鋳型照合、特徴分析など。
- 7 ジェームズ・ランゲ説の説明はどれか。
 - ▶ 正答の他の選択肢は、キャンノンバード説、シャクターの二要因理論、ラザルスの認知説とザイアンスの説。
- 8 達成動機について正しいものはどれか。
 - ▶ マレー、アトキンソン、ワイナーなど、5人の心理学者とその説明があった。

- 9 ハルの動因低減説の説明はどれか。
 - ▶ 選択肢は、動因説、誘因説など。
- 10 ラザルスの認知的不安論の説明で正しいものはどれか。
- 11 部分強化効果の説明で正しいものはどれか。
- 12 メタ認知の説明について正しいものはどれか。
- 13 記憶の問題。何度も繰り返して覚えることをなんというか。
 - ▶ 選択肢は、リハーサル、体制化、場所法、チャンキングなど。
- 14 計算論的モデルに関する穴埋め問題。
 - ▶ 正解の選択肢は、「活性化拡散モデル」と「潜在記憶」か。
- 15 失語症について正しい説明はどれか。
 - ▶ 選択肢は、ブローカ失語、ウェルニッケ失語、全失語など。
- 16 シュブランガーのパーソナリティ理論について正しいものはどれか。
 - ▶ 他の選択肢は、クレッチマー、ユング、ビッグ・ファイブなど。
- 17 ヘレーネ・ドイッチュが提唱したパーソナリティについて正しいものはどれか。
 - ▶ 選択肢はシゾイド型、かのような人格(as if personality)、偽りの自己(ウイニコット)。
- 18 質問紙法と投影法の違いについて正しいものを選べ。
 - ▶ 質問紙法と投影法それぞれの長所、短所が混ざった選択肢があった。
- 19 ピアジェの三つ山課題がうまくできない子どもの認知的特徴は何か。
 - ▶ 選択肢は、自己中心性など。
- 20 幼児期に見られる連合遊びの説明として正しいものはどれか。
- 21 エコラリアの説明として正しいものはどれか。
- 22 老年期の適応に関する理論について正しいものはどれか。
 - ▶ 離脱理論が正解か。(離脱理論とは、Cumming & Henry (1961) によれば高齢者は死に備えて社会活動から離れ、社会的環境を縮小することで、主観的幸福感を維持するという仮説)。
- 23 対応推論理論の説明について正しいものはどれか。
- 24 議題設定効果の説明について正しいものはどれか。
- 25 ミルグラムのアイヒマン実験の説明として正しいものはどれか。
- 26 集団極性化の説明として正しいものはどれか。
- 27 教育の問題。下線部の語句の正誤判断の問題で、下線部が引いてある単語は実質陶冶、発見学習、同一要素説。
- 28 自己制御学習の説明について正しいものはどれか。
- 29 シャインの組織内キャリア発達について正しいものはどれか。

- 30 パラ言語の説明について正しいものはどれか。
▶ パラ言語とはイントネーションやリズムなどの言語の周延的情報のこと。
- 31 フランクルの実存分析に関する穴埋め問題。
▶ 実存分析がわかれば解けるような選択肢。
- 32 アスペルガー障害の説明について正しいものはどれか。
▶ 他の選択肢は、ADHD や行為障害など。
- 33 イマジナリー・コンパニオンの説明として正しいものはどれか。
- 34 PTSD の治療法である、EMDR に関する記述として正しいものはどれか。
▶ 選択肢は、「視覚障害者には使えない」「その出来事があった 24 ～ 27 時間以内に行うのがよい」「目を左右に動かして想起を抑制する」など。
- 35 境界性パーソナリティ障害の治療法について。
▶ 文中にマスターソンの名前あり。
- 36 縦断研究の説明について正しいものはどれか。
- 37 グラウンデッド・セオリー・アプローチについての穴埋め問題。
- 38 三つの文章を読んで、適切な統計の手法を選ぶ問題。
▶ 選択肢は分散分析と t 検定、単回帰と重回帰、クラスター分析など。
- 39 カイ二乗検定（計算しなくても表を見て解ける）。
- 40 ピアソンの積率相関係数に関する正しい記述はどれか。

VI [新試験制度] 平成 24 年度 裁判所総合職（人間科学）一次専門試験 解答例

従来の家裁調査官補の試験と変わらず、平成 24 年度の一次試験の語句説明は 6 題。「心理学概論」を中心とした古典的かつ基本的なものが出題された。近年の傾向として、古典的な研究の「実験手続き」を書かせるものがあるが、今年はそれが 2 題あった（Bandura の観察学習と Rosenthal のピグマリオン効果）。今後もこの傾向は続くかもしれない。

以下、今年度の語句説明の解答例を示す。解答例の中には指示された文字数に若干足りないものもあるが、これは、解答用紙に用意されたマス目の中で改行しながら記述をしたときに、ほどよく枠に収めることを想定しているためである。

なお、指示された文字数に対して、改行せずにきっちり詰めて書くべきだという考えもあるかもしれない。筆者らは、公務員試験もまた就職試験であり、記述試験で解答用紙（マス目）に書く場合も社会人としての常識が求められると考える。ゆえに、書き出しは一文字空ける、必要に応じて改行し段落を作る、数字やアルファベットなどは半角扱い（一マスに 2 文字）、句読点を正確に使う等のルールを守って書くよう、学生に指導している。

第1問 仮現運動について200字以内で簡潔に説明せよ。

解答例 広義には静止している対象が運動して見える現象である。狭義には、ゲシュタルト心理学者のWertheimerが見出した β 運動を指すことが多い。 β 運動とは、静止した2つの刺激が一定の時間間隔で交互に出現、消失を繰り返すと、その2刺激間に往復運動が観察される現象である。刺激呈示に関して一定の条件下で滑らかな運動印象のみが観察され、これを ϕ 現象と呼ぶが、その条件間の関係はホルテの法則として定式化されている。(200字)

※ここではたまたま β 運動とホルテの法則について書いたが、これが唯一絶対の正答ということではない。 β 運動についてのみ詳しく書くとか、ホルテの法則については触れないとか、広義の仮現運動について書くとか、いろいろなまとめ方があるだろう。

第2問 動因と誘因についてそれぞれ具体例を挙げて説明した上で、動機づけの考え方である動因説と誘因説について、400字以内で簡潔に説明せよ。

解答例 動因とは、生体の内部にあって行動を引き起こす要因であり、具体的には飢えなどが挙げられる。動因説によれば、飢えにより生体は行動を起こし、食物を得ることで動因は低減する。Hullの動因低減説でも知られるように、動因を低減させる行動は強化される。

誘因とは、環境にあって行動を引き出す要因であり、具体的には食物が挙げられる。誘因説によれば、生体が飢えの状態になくとも、食物が目の前にあるとそれを得るための行動が起こる。またネズミの迷路学習で目標箱の餌の量を突然減らすと、ネズミの走行速度は急激に低下するというクレスピ効果も誘因説を支持している。

動因説と誘因説とは、相互に作用し合い、生体の行動を動機づけるといわれるが、特にヒトの動機づけ過程は複雑化しており、誘因の役割が大きな力を持つこともある。(344字)

※問題が一見古典的すぎるように見え、何かひねった意図があるのかと思ったが、どうもそういうことではなく、単純に誘因と動因について書けばよいらしい。

文献：鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃 『心理学〔第三版〕』1996年、東京大学出版会

第3問 A. バンデューラの観察学習の理論について、具体的実験手続きを示しながら400字以内で簡潔に説明せよ。

解答例 観察学習とはモデルの観察により新たな行動型を学習することであるが、Banduraは行動の習得と遂行を分け、習得した行動の遂行には、代理強化などの動機づけが関わるとした。

実験では、子どもたちに大人のモデルがプレイルームで人形を攻撃する映像を鑑賞させた。子どもは映像により強化群、罰群、統制群に分けられた。強化群では映像の最後でモデルが実験者からほめられ、罰群ではモデルが叱られるものであった。統制群はモデルが攻撃をする場面の映像だけであった。

鑑賞後、子どもたちは映像と同じ人形のおいてあるプレイルームで自由に遊ぶように教

示された。この結果、モデルと類似した攻撃行動は、罰群の子どもでも低く抑えられたが、強化群と統制群では多く見られた。よって、観察学習と代理強化の効果が確かめられた。(340字)

文献：鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃 『心理学〔第三版〕』 1996年、東京大学出版会

第4問 外傷性ストレス障害 (Posttraumatic Stress Disorder) について 200字以内で簡潔に説明せよ。

解答例 災害、大事故や暴行などによる非常に強い苦痛を体験した後、それが心の傷となり、その後の適応に重篤な障害をもたらすものをいう。

症状としては、覚醒時や夢でその出来事が再体験されること、出来事と関連する刺激を回避したり、現実感が麻痺すること、不眠や集中困難などの過覚醒などが挙げられ、DSM-IV-TRでは、これらの症状が4週間以上にわたって持続する場合、この障害として診断される。(187字)

文献：APA 高橋三郎・大野 裕・染矢俊幸(訳)『DSM-IV-TR 精神疾患の診断・統計マニュアル〔新訂版〕』2002年、医学書院 (APA 2000 *Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders*, 4th ed., Text Revision; Washington, D. C.: American Psychiatric Association.)

第5問 気質について、A. トーマスと S. チェスの乳児研究に触れながら 400字以内で簡潔に説明せよ。

解答例 ニューヨークに住む中流家庭の子ども133人を対象とした縦断的な発達研究で、「ニューヨーク縦断研究」とも呼ばれる。具体的には、子どもたちの乳児期と青年期に、行動観察の他、養育者や教師のインタビュー、心理テスト等を通じて、子どもの気質の個人差を調べた研究である。

この結果、活動水準、接近・回避、周期性、順応性、反応の閾値、反応の強度、気分の質、気の散りやすさ、注意の範囲と持続性といった、子どもの気質を評定する9つの基準が見出された。これらの基準に基づいて調査対象の子どもたちを評価した結果、気質は、「扱いにくい子ども」「扱いやすい子ども」「エンジンがかかりにくい子ども」の3つのタイプに分類された。

研究が開始された20世紀半ばは、子どもの発達に対する環境決定論が優勢であったが、この研究によって子どもの気質の個人差やその環境との相互作用が注目されるようになった。(382字)

文献：東洋・繁多進・田島信元(編)『発達心理学ハンドブック』1992年、福村出版
Thomas, A. & Chess, S. 1980 *The dynamics of psychological development*. Brunner/Mazel. (林 雅次(監訳)『子どもの気質と心理的発達』1981年、星和書店)

第6問 R. ローゼンサール (R. Rosenthal) と L. ヤクブソン (L. Jacobson) による教師期待効果 (ピグマリオン効果) の研究について、具体的実験手続きを示しながら 400 字以内で簡潔に説明せよ。

解答例 教師が児童に対してある期待を持つと、それを意識されるか否かにかかわらず、期待が実現する方向に機能することを教師期待効果という。

Rosenthal らは、小学校の教師 18 人に対し次の手続きで実験を行った。①潜在的な能力が伸びるかどうかわかるテストであると伝えて、児童にただの知能テストを実施した。②ランダムに選んだ生徒について伸びる児童であると教師に伝えることにより、その児童に対する期待を持たせた。③学年末に再び知能テストを実施した。この結果、伸びるといわれた児童は、ランダムに選んだ児童であったにもかかわらず、有意にテストの成績 (IQ) が伸びた。

この効果が生じる理由としては、教師が特定の児童に期待を持つことにより、意識せずともその児童にヒントを与えたり、質問を言い換えたりといった動機づけるような働きかけをしているからであることが明らかにされた。(374 字)

※ Rosenthal ら (1963) によれば、教師期待効果は低学年にしか効果がなかったという。

文献：Rosenthal, R., & Jacobson, L. 1963 Teachers' expectancies: Determinants of pupils' IQ gains. *Psychological Reports*, 19, 115-118.

付録 心理職公務員を目指すにあたってのよくある質問

Q1 心理職の採用では臨床心理士の資格がある人が有利なのですか？

A1 裁判所総合職と国家総合職の人間科学区分に関しては、臨床心理士の資格の有無はまったく関係がないといってよい。国家総合職、裁判所総合職の仕事を調べるとわかるが、臨床心理士であることは必ずしも国家公務員としての適性を保証しない。筆記試験や人物試験を通して公務員総合職としてのその仕事に適性がある人が各省庁、裁判所で採用されているようである。

法務省専門職員、特に矯正心理職については、平成 24 年度に初めて試験が行われたためまだわからないことも多いが、平成 24 年度に限っていえば、学部生や臨床系以外の院生も最終合格している。臨床心理士の資格があるから有利ということはなさそうである。

しかし、自治体の心理職・心理判定員に関しては話は少しばかり別である。自治体によって、二次試験の段階で臨床心理士有資格者や臨床系の院生を優遇するところはある。近畿圏の自治体が典型といえる。東北、関東、中部、東海圏等では一部の政令指定都市を除き、近年も心理学専攻の学部卒が採用されている。ただし、この傾向もいつ変わるかわからない。東京都の心理職では、数年前までは学部卒を多く採用していたが、近年は院生、院卒

(臨床系)の採用が増えている(平成24年度は最終合格10人中8人が院生ないし院卒)。受験希望の自治体が学部卒でも採用してくれるかどうか知りたい場合は、説明会やセミナーに足を運び、率直に質問するとよい。「これまで心理で採用になった人で学部卒(新卒)はどのくらいの割合ですか」と。

Q2 心理職を採用していない自治体は、心理の仕事は誰がやっているのですか？

A2 確かに、心理職を採用していない自治体は昔からある。これらの自治体では、臨床心理士の有資格者が非常勤で心理職として働いていることも多いようである。心理職を採用している自治体でも、公務員試験で採用された心理職の職員とは別に非常勤で採用された臨床心理士の人が現場で働いている。これら非常勤の職員は、自治体にもよって基準が異なるようだが、数年勤務したのち何らかの試験を受けて常勤の職員になるという。

Q3 心理学専攻ではないのですが、心理職公務員を受験しても大丈夫ですか？

A3 一部の自治体では心理職に関して「選考採用」を行っているところもあり、その場合は、心理系を専攻していないと受験できない。まずは受験したい自治体の募集要項を確認すること。それ以外の自治体の心理や国家公務員試験(裁判所含む)では他専攻でも心理職を受験可能である。実際に最近も、経済学部出身の既卒者で、北関東の某自治体の心理職として合格し、採用された人がいる。

しかしながら、筆者らは積極的には他専攻の学生の心理職受験を勧めていない。第一の理由は、そうした学生の多くにとって、彼・彼女らの期待とは違って心理学が「難しい」からである。心理学専攻以外の学生で心理職に関心を持つ人の多くは、心理学がどのような学問か、どんな知識が試験で問われるかを知らないことも多い。予備校や大学の学内講座でも、心理学の予想外の難しさに講義についていけず、他専攻の学生が途中で行政系の公務員へと志望を変えることは少なくない。それでも心理職になりたいという場合は、まず『試験にでる心理学』で心理系公務員の過去問をみたり、鹿取・杉本・鳥居の『心理学』(東京大学出版会)などをざっと読んでみるなど、情報収集をしてほしい。周囲にいる心理学専攻の大学生に相談してみるのもいだろう。それからもう一つ、他専攻の受験者の場合、受験先は、国家総合職、法務省専門職員、裁判所総合職に限られると考えておいた方がよい。基本的に自治体の心理職は即職力志向が強いため、実質的に他専攻の人は採用されにくい傾向がある。これらの事情を理解したうえで心理職公務員を目指すかどうかを決めてほしい。

Q4 新制度の院卒の試験と学部卒の専門(心理)試験は、難易度が異なるのですか？

A4 平成24年度から国家総合職と裁判所総合職において院卒と学部卒で試験が分かれる

ようになったが、専門科目（心理学）の試験の出題内容は院卒も大卒も同じであるため、難易度に違いはない。

Q5 法務技官として鑑別所で働きたい場合は、これからは法務省専門職員の矯正心理職を受験すればよいのですか。

A5 法務技官として鑑別所で働きたいという場合、従来は2つのルートがあった。国家I種を人間科学で受験し、法務省矯正局で採用されるというルートと、心理系の大学院に進学して法務技官のA種採用試験を受験するというルートである。平成24年度の新試験制度からは、大雑把に言えば、前者が国家総合職（人間科学）であり、後者が法務省専門職員の矯正心理職にあたると考えてよい。ただし、法務省専門職員の矯正心理職は、学部卒にも受験枠を拡大している。

国家総合職と法務省専門職員は、試験日が違うので併願ができる。平成24年度に受験した人の中には、国家総合職では法務省矯正局での採用内定に至らなかった人が、併願していた矯正心理職の方で内定を得たということもあった。なおこの二つの仕事内容やキャリアパスの違いの詳細については、法務省の説明会（セミナー）等に出席して自分で確認してほしい。また、毎年夏に法務省のインターンシップも行われているため、心理系の希望者は申し込んでみるとよいだろう。

Q6 省庁や裁判所、自治体の説明会やセミナーは行かないと不利ですか。

A6 有利・不利以前の問題である。受験先に関連する説明会には必ず一度は足を運ぶこと。説明会（セミナー）では、その年の受験についてや仕事内容、その自治体・省庁が抱える課題など、最も重要な情報が得られるからである。説明会と一口にいっても、「裁判所見学セミナー」「霞が関OPENゼミ」「女子学生セミナー」「霞が関特別講演」「総合職中央省庁セミナー」…と、国家公務員関係だけでも一年間にわたって様々な開催される。国家総合職関係のセミナーは地方でも開催される。また家裁のセミナーは人数の都合で先着とか抽選ということもある。ゆえに人事院の採用試験情報ナビや裁判所のサイトで常に説明会等の情報をチェックし、機会を作って参加しよう。

仕事についてはネットで調べるからわざわざ説明会には行かずにすませたい、という学生もいるが、ネットの情報は誰もが知っている陳腐化された情報や古い情報であることが多く、場合によっては間違った情報であることも少なくない（「国家総合職は大学院生しか受からない」など）。自ら会場に足を運び、直接相手に会うことで得られる情報の価値は高く、後々面接等の人物試験で生きてくる。面倒くさがらずに、情報は足で稼ごう。

